



CASSIOPEIA—UHC達成に向けて、対象の5つの病院における、5つ星に輝く質の高い医療ケアサービスを目指して

## JICA ルサカ郡総合病院運営管理能力強化プロジェクト



コレラの発生に対処するため、現場のニーズに基づき、プロジェクトからルサカ州保健局をサポートするためのアイテムを提供(左から緒方プロジェクト業務調整、オスカー・ンジラ監視官、ソフィア・ムシスカ臨床ケア専門家、法月チーフアドバイザー、クリスティン・シャワ健康促進官、ピーター・ムレヤ主任プランナー、リタ・ルングプロジェクトアシスタント)

コレラとの戦いにおいて、地域のORAL REHYDRATION POINT は非常に重要

チレンジェ1次レベル病院の薬局部門にトローリーを提供

フォト・フォーカス



## コレラとの戦いにおいて 地域のORPは非常に重要



プロジェクト専門家とNCGMの医師が、郡保健局での給水用バケツにラベルを貼る様子

**カ** シオペア・プロジェクトは、日本の国立国際医療研究センター(NCGM)と共に、マテロ地区のOral rehydration Point (ORP)を訪れました。マテロ1次レベル病院のナオミ・カボンデ公衆衛生専門家の同行のもと、両チームはマテロ、ジョージ、リランダの地域にある複数のORPを訪れました。

NCGMの駒田医師と秋山医師は、州保健局とカシオペア・プロジェクトの法月チーフアドバイザーの招待を受け、ザンビアのルサカを訪れました。二人の目的は、ORPの機材等を提供し、ルサカ州のコレラとの戦いをサポートすることでした。

異なる給水サイトを訪れる中、法月チーフは地域のボランティアに対して、コレラ予防に関する地域保健ハンドブックを提供し、給水所を訪れる人々と共有するよう奨励しました。チームは3つのORPを訪れ、カボンデ専門家は病院が教会と学校をORPの提供先のパートナーとして選んだ理由について説明しました。その理由は、これらは地域住民から見て安全な場所と考えられているからです。

ORPは、コミュニティメ

ンバーが下痢の症状や疾患に関連する医療を求める最初の連絡先として機能しています。コミュニティボランティアはクライアントの背景情報を収集し、もしコレラの症例の定義を満たす場合は、早期治療とさらなる評価のためにマテロ1次レベル病院に紹介されます。マテロ1次レベル病院は、ルサカ郡のコレラ発生を受けてORPを設置しました。

マテロ1次レベル病院および周辺地区への訪問は、最終的にアストリダ・マセカ医師への表敬訪問で締めくくられました。ここで、法月チーフアドバイザーがJICAカシオペアプロジェクトとNCGMの協力関係を説明し、コレラ発生との戦いにおいて、駒田医師と秋山医師を紹介しました。

NCGMは、60セットのORP機器を提供しました。これには、蛇口のついたバケツ3つと蛇口のないバケツ1つが含まれ、ORS用、塩素処理された水用、手洗い用、カップの消毒用になって含みます。感染予防と制御(IPC)のためのポスターおよびバケツ用のステッカーは、カシオペア・プロジェクトによって提供されました。これらのセットは、ルサカ州とルサカ郡に分配されます。



秋山医師、法月チーフ、看護担当者、そして駒田医師がマテロ1次レベル病院のコレラ治療センターでの様子



法月チーフがマテロ郡のORPコミュニティボランティアに、コレラの症状の識別と適切な治療に関する冊子を説明している様子



ジョージ・ニヤママテロ地域保健委員長、駒田医師、秋山医師、カボンデ専門家、法月チーフとコミュニティボランティアの様子



上: NCGMによるDHOへの備品の引き渡し  
下: マテロ1次レベル病院のコレラトリージテントでの法月チーフと駒田医師



## チレンジェ1次レベル病院の薬局部門にトローリーを提供

**ル** サカ州の5つの1次レベル病院で、薬や備品の部門間の移動が難しいという問題が、カシオペア・プロジェクトからのトローリーの提供により軽減されました。

薬品在庫管理・医療機器管理の塩田専門家は、「薬剤師が病院内で薬品や外科手術用品を効果的に運ぶために、備品が必要である」と述べました。

これまで、チャワマ、

チレンジェ、チパタ、カニャマ、そしてマテロ1次レベル病院では、薬品や外科手術用品を移動するために車椅子や担架が使用されていました。今回の備品の提供により、これらの機器は本来の目的に使われることができます。5つの1次レベル病院の薬局部門にはそれぞれ4台の手押し車が提供されました。

カシオペア・プロジェクトの目的は、5つの1次レベル病院の能力を強化することであり、その一環とし

て、各部門に適切な作業環境を提供するという活動も含まれます。薬局のシステム強化と管理のサポートから、薬局管理のベストプラクティスの共有まで、様々な支援が行われています。

プロジェクトは、薬品や外科機器の輸送や保管に使用するためのプラスチックの用具箱を調達し、薬局内で薬品やその他の物品を保管するスペースを増やすために棚の設置も進めています。



トローリーの使用方法を説明する塩田専門家



チレンジェ病院の薬局部門へプラスチック用具箱を提供している様子

写真1: チレンジェ1次レベル病院のマコワネ薬剤師が、薬局用のプラスチック用具箱を受け取る様子  
写真2: ナムコンダ薬剤師、塩田専門家、カバレ医師、ビビブワ氏、シラブウェ看護師と集合写真。



## カニヤマ1次レベル病院スタッフがチレンジェ1次レベル病院を訪問 感染予防と管理 (IPC) の交流

**カ**ニヤマ1次レベル病院の感染予防チーム(ICT)が、毎週行われるIPCラウンドにおいて、チレンジェ1次レベル病院を訪問しました。このラウンドでは、様々な病院の部門を巡回し、各部門がIPCプロトコルに従っているかどうかを確認しています。

カニヤマのIPCチームは、病院のマギー・ムガラ環境技術官、イルンガ・ムトワレ医師、およびエメルダ・ムエンダポール計画官から構成されています。訪問の目的は、IPCプロトコルに関する知識を交換し合うこと、お互いから学び取ることでした。

チレンジェ1次レベル病院は、2023年9月にIPC委員会とICTを設立し、病院の運営陣がこのチームを立ち上げることに合意しました。それ以来、IPC医師、IPC看護師、および環境技術官が毎週、部門ごとに巡回し、部門のIPCチャンピオン(IPCリンクパーソン)と連絡を取りながら、スタッフがIPCプロトコルに従っているかどうかを検査しています。各IPC訪問は、部門のニーズによって異なります。

訪問後のインタビューでムガラ環境技術官は、チレンジェ1次レベル病院での経験がIPCプロトコルの重要性を浮き彫りにし、病院の全職種がIPCに関与しスタッフが好意的で

あることに感心したと述べました。彼女はさらに、カニヤマ1次レベル病院では感染予防チームを設立し、施設がIPCプロトコルのために必要なことを包括的に理解できるように努めると述べました。

カニヤマチームの訪問の終わりに、両チームは会議を開き、IPC委員会やICTを通じて、両病院が課題を共有し、業務を助け合うための協力をどのように続けるかについて話し合いました。感染予防チームを交換して、相手方のためにIPCラウンドを行い、各部門を評価することなどが提案されました。



写真1: チレンジェチームとカニヤマチームが共同でIPCラウンドを行っている様子



写真2: ニヤンガ専門家と、カニヤマのムトワレ医師、ムエンダポール計画官がIPCラウンドを行っている様子

写真3: 救急部門のフィリ看護師とシムヨバ医師がIPCラウンドを行っている様子。

写真4: チレンジェ1次レベル病院のICTチーム、カニヤマ1次レベル病院のチーム、ニヤンガ専門家との集合写真



## チパタ1次レベル病院の感染予防委員会が会議を開催

**各**部門の責任者や若手職員を含む、チレンジェ1次レベル病院のスタッフは、2023年12月12日から15日まで、チランガで開催された会議に参加し、病院の2023年のバランスド・スコアカードを見直し、全体的なパフォーマンスを検討しました。様々な部署が交代で、前年の課題や達成、そして今後の展望を発表しました。

チレンジェ1次レベル病院のマコワネ薬剤師は、薬局の業務を需要に合わせて効率化する取り組みについてのプレゼンテーションとディスカッションをリードしました。マコワネ薬剤師は、在庫カードの導入と週次の病棟巡回によって、部門が必要な薬品を改善し、不要な薬品が必要のない病棟や部門に提供されないようになったと説明しました。病棟は今や薬局に直接必要なものを伝え、これにより不要な薬品の過剰在庫を減らすのに役立っています。

感染予防チームはIPC委員会の導入以降の成果と、毎週水曜日に行われる各病院部門を訪れるIPCラウンドの実施

について、達成した目標についてプレゼンテーションとディスカッションを行いました。

別のセクションでは、IPC医師であるサンドラ・シラムヨバ医師が手術部位感染に焦点を当て、特に9月から11月までの期間に病院で手術部位感染が続いている理由について説明しました。チームには臨床医や公衆衛生看護師と協力して、どの患者層が感染しているかを特定するために努力するようアドバイスがありました。感染症に苦しむ患者が以前に医療上の問題を抱えている場合、臨床医と病院スタッフはそれを知り、効果的な治療法を見つけることができるという観点が強調されました。

シラムヨバ医師は、彼らが直面している主な問題は、手術部位感染のデータを識別および分離するのに十分な人員がないことであると嘆きました。ミヤンダ・シムワカ公衆衛生専門家は、サンドラ医師に対して、彼女の部署がIPC委員会とチームと協力して、なぜ病院が手術部位感染の問題に悩まされ続けているのかを解明しようと努力すると約束しました。

運営委員会のメンバーも、両部門が続けている辛抱強い仕事を賞賛しました。



写真1: マコワネ薬剤師がプレゼンテーションをする様子

写真2: Richard Mwila病院長が週の会議の最後に閉会の辞を述べる様子



写真3: 塩田専門家がQ&Aセッションに参加している様子

写真4: シラムヨバ医師が手術部位感染に関するプレゼンテーションを行う様子



フォト・フォーカス



トローリー提供時の様子(緒方プロジェクト業務調整、塩田専門家、チュル薬局責任者代行シャワ医師、ニャンガ専門家)



IPC交流の様子(ウシバンツ環境衛生官、ムトワレ医師、ムエンダポール計画官、ムガラ氏、ニャンガ専門家)



カボンデ公衆衛生専門家とニヤマ保健委員長が、マテロ地区の給水ステーションを訪問している様子



ブランケットを郡保健局へ提供したときの集合写真(ナンベイ公衆衛生専門家、緒方業務調整とンコマ薬剤師)



マテロ1次レベル病院のコレラ治療センター訪問時の様子(秋山医師、法月チーフアドバイザー、駒田医師)



IPCラウンド実施の様子(フィリ看護師、シアマヨバ医師)、小児科IPCチャンピオン)



編集・デザイン: コンベ カパタモヨ

編集: 緒方 敬

編集長: 法月 正太郎

連絡先

法月正太郎 ルサカ郡病院運営管理能力強化プロジェクト チーフアドバイザー

住所: Plot No.11743A, Brenwood Lane, Longacres. P.o. Box 30027, Lusaka, 10101, ZAMBIA

Cell: +260 765 192 865 (official)

チレンジェ1次レベル病院の運営チームが、チランガで開催されたレビューミーティングに参加する様子